

## ミステリー・ボックス

### Catherine McCoy

Sussex Heights, Huntingdale,  
and Gardenvale Primary Schools  
Victoria, Australia



学習者年齢： 6～11才  
日本語レベル： 初級  
文化面の目的： 日本の日用品を見て触る  
日豪の日常生活を比較する  
学習する日本語： 質問の仕方  
“これはなんですか  
どのように使いますか”

#### 学習目標

ビデオ、本などの間接的な情報ではなく、ミステリー・ボックス（日本の日用品を入れた箱）の中のアイテムを実際に見たり触ったりすることにより、日本とオーストラリアの日常生活のようすを比較する。

教師がボックスからアイテムを取り出し「（これは）なんですか」と問いかける。それに対して、子どもたちが積極的に応じられるようになることを目標にしている。

#### 授業の進め方

##### <事前学習>

基礎的な質問文の学習を終えた高学年のクラスでは日本語で、低学年のクラスでは英語で質問する。

##### <用意する物>

- ・トマトケチャップの入れ物
- ・ミスタードーナツの手提げ袋
- ・切符
- ・お金
- ・デパートの包装紙
- ・コーヒーやココロラの缶
- ・トイレの写真
- ・風呂敷
- ・新聞のテレビ欄

・マーガリンの箱  
・文房具など日本の日用品を入れた  
ミステリー・ボックス

授業の成功はアイテムの選び方にかかっている。

##### <進行方法>

1. ミステリー・ボックスの中に、日本の日用品が入っていることを生徒に説明し、「なんですか」「どのように使いますか」などの基礎構文を復習する。
2. ミステリー・ボックスの中から教師が一つずつ取り出したアイテムについて、日本語または英語で生徒に質問をする（質問項目は、「なんですか」「どこから来ましたか」「どこで買いますか」「同じことができますか」「なぜ」など）。
3. 生徒は英語で質問に答え、それについて全員でディスカッションする。
4. 先生がアイテムの使い道について説明した後で、アイテムを一つずつ見やすい位置に置いていく。
5. 次に、生徒に各アイテムの絵が描いてある紙を渡す。生徒は、学年に応じてグループまたは個人でノートにその絵をはり、名前と説明を書く。
6. 絵を教室に飾ったり、自宅に持ち

帰って家族に見せたりして、学習内容を生徒の実生活に結びつけていく。

7. ひらがなを学習した後、絵をはったノートを使って、アイテムの名前をひらがなで書かせてもよい。

#### 生徒の意見・反応

（「」内は生徒の言葉）

- ・「マーガリンの箱はケーキミックスの箱だと思った」
- ・「缶コーヒーはレモネードの缶だと思った」

#### 外国語学習と文化理解

家や家族を必要とし、遊んだり歌ったりして生きる喜びを感じたり、歌や芸術に関心を抱いたりすることは、どの文化圏に属する人間にもある程度共通している。しかし、それらを手に入れたり、達成する方法は、文化的背景やその国や地域の風俗、習慣によって異なる。オーストラリアと日本の子どもが家族、学校、乗り物、お金、ゲーム、歌、テレビ、食べ物、飲み物などに対して共通の関心を抱きながらも、その内容が文化的背景によって異なることを生徒に伝えたい。